

山行記録

岐阜・郡上八幡、ひるがの高原、大日ヶ岳登山

年月日	2024年4月29日(月)～30日(火)
天気	29日曇り、30日雨
集合場所・時間	JR 芦屋南 7:45 (貸切バスハイク)
参加人数	21名
歩行時間・距離	大日ヶ岳登山、6:45、15.4km ひるがの高原ハイク、2:30、9km
費用	約29,000円

コースタイム

4月29日(月):JR 芦屋南 7:50⇒(名神、東海北陸道)⇒多賀 SA⇒郡上八幡博覧館 11:35～昼食とガイド付きまちなか観光～14:40⇒ひるがの SA⇒宿舎(ひるがの高原シルキーハウス)15:40 着

4月30日(火):

★大日ヶ岳(1,709m)登山

宿舎 6:31 発～休憩 6:53/6:57～登山口 7:04～何回かの休憩 29分～展望台 10:18/10:22～大日ヶ岳頂上 10:49/10:59～往路を戻る～展望台、ランチ 11:23/11:40～休憩 12:09/12:15～一ぷく平 12:50/12:59～休憩 13:38/13:45～登山口 14:26～宿舎(バス待機)14:52 着

宿舎 15:25⇒関 SA⇒多賀 SA⇒JR 芦屋 19:40 着

★ひるがの高原ハイク

宿舎 9:30～あやめ沢湿原 9:55/10:00～新開地通り～ひるがの高原キャンプ場前 10:30～螢沢通り～カフェひるが(ランチ)10:55/12:15～大日ヶ岳登山口 12:32/12:40～湿原ブナ林 13:05～分水嶺公園 13:10/13:15～たかすファーマース 13:20/13:40～しらかば通り～宿舎(バス待機)14:00

感想

4月29日(月)

★郡上八幡

お昼前に郡上八幡に到着、ガイド付きまちなか案内までに時間があるので各自自由に昼食、小生は数人とそば屋で「鶏ちゃん定食」を注文。鶏ちゃんは鶏肉を野菜と一緒に炒めた郡上の名物料理でそれに冷たい蕎麦、冷えたビールを少々と美味しかったですよ。博覧館で展示物を見たり郡上踊りの実演を楽しんだ後、ガイドさんの案内で郡上八幡市内を観光。水が豊富な町で家の前の側溝には水が勢いよく流れています。各家には側溝の堰板が備えてあり、それで流れを止めて植木の水やりとか水仕事をするそうです。今は水道がありますが無い時代は野菜なども洗っていたとの事。有名な郡上踊りはお盆の頃に道路で移動式屋台(笛や太鼓などの演奏台)を囲んで夜通し(朝の5時まで)踊るのだそうです。また郡上八幡は食品サンプルの町でもあり、それをアクセサリーにしたものも売っていました。名物のニッキ味の飴玉も試食。古いまちなかをガイドの案内で歩くと単にブラつくよりも歴史や特色がわかって面白い。

★ひるがの高原

3時半過ぎに宿舎のペンションシルキーハウスに着いたので夕食までの間付近を散策。ひるがの高原は高度約900mで六甲山と同じ高さにあるためか遅い春で、水仙とか桜もま

で見られます。水芭蕉の群生はあやめ沢湿原が1番ですが、そこに寄る時間もないので分水嶺公園の水芭蕉を鑑賞し宿舎に戻りました。（翌日ハイク組のあやめ沢湿原の水芭蕉写真を見ると壮観、是非見たかったなー！残念）

入浴後はディナータイム。洋食のコース料理でビール、赤や白のワインなどもいただき、おいしく楽しい夜を過ごしました。（夕食時には強い雨が降り出し、明日の天気が心配）

4月30日（火）

★大日ヶ岳登山

前夜の天気予報では9時前後には雨は止む予報。その後雨雲レーダーで雨雲の様子を見ますがお昼ぐらいまでは雨覚悟。当初予定は登山組16名でしたが朝の天気を見てかハイク組に変更が続出、結局10名で雨の中カッパを着て宿舎を出発です。

今日登る大日ヶ岳1,709mは参加者全員初めての山です。標高差の割にはコースタイムが長い、という事はフラットな道や緩斜面や多いなだらかな山道。歩くには楽ですがその分歩行距離と時間が長くかかりました。

宿舎を出て高原の道路を歩き30分で登山口、ゆるやかな山道を歩き始めます。1時間ほど歩いたでしょうかブナ林が始まります。ガスがかかった山道に新緑のブナ、幻想的でなんとも素晴らしい！しばらく歩くとムラサキヤシオ発見、独特の紫っぽいピンク色の花がグレーのモヤの中に浮かび上がります。ブナ林は結構長く続いています。一時的に雨が止んだようですがまた降り出しました。ブナ林が終わると白い花を一杯つけたタムシバが現れます。六甲では4月頭が開花のピークですが、ここは開花真っ盛り！登山道の先に白いかたまり（タムシバの花です）が見えると感激ですね！しかも登山道の横で咲いておりちょっと背も低いのかな、このため接写もできます。六甲や比良山系では登山道の横の林の中に咲いており背も高く接写は難しい。

頂上近くになると残雪が現れます。登山道上の残雪歩きが5-6回、下が空洞の残雪もあり、それを避けるよう土の部分に足を置くとニュルニュルと滑って大変です。頂上手前の展望所、そして頂上、ガスで360度何も見えません。雨と残雪に耐えて登った1,709mでバンザイの記念写真。山は下りの方が要注意、残雪は慎重に下りましたが雨を一杯含んだ登山道でスリップ者続出でした。15時前にはバス待機の宿舎駐車場に到着、15km、8時間を超える長丁場、ブナとタムシバに癒されながらの大日ヶ岳登山でした。



★ひるがの高原ハイク

今日は朝から雨です。ハウス前でメンバー11名が集合し、遊歩道が整備された最も広いあやめ沢湿原で記念撮影です。あやめ沢湿原の水芭蕉は最盛期で見事に一面広がり感動です。バス停スキー場前の水芭蕉は終わりでした。キャンプ場前を通り過ぎたあたりから雨足も強くなり休憩場所にと「カフェひるがの」に5分前のモーニングに滑り込みセーフです。年配のお二人がされているので急がしてはなりません。お箸を持つまでに30分待ちましたが皆さん山の話と笑い話はずきません。ごはん・目玉焼き・焼き鮭・ノリと小洒落た分、ランチとして済ませ山頂登山口前に。腰痛をわが身の不運と感じ登山組を羨ましく思いながら、ここでエールを送り立ち休憩です。新緑の見事な木陰ゾーンから湿原ブナ林を歩きますが太陽は出てくれません。分水嶺公園の前で一休み、たかすファーマーズで地元のソフトクリームをいただくがとても美味しかったこと。氷河期の生き残りと言われる水芭蕉を鑑賞し色とりどりの春の花、遅咲きのボタン桜と見事なブナ林、身近に大自然と歩ける「ひるがの高原」はゆっくりと歩けました。もう一度機会があれば歩きたく思いました。今回のバスハイクにご尽力いただきました皆さまに本当に感謝です。有難うございました。